



## 2021年2月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年7月8日

上場会社名 マックスバリュ九州株式会社

上場取引所 東

コード番号 3171 URL <http://www.mv-kyushu.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐々木 勉

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営管理本部長兼経営管理部長 (氏名) 篠崎 岳

TEL 092-260-5001

四半期報告書提出予定日 2020年7月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年2月期第1四半期の業績(2020年3月1日～2020年5月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第1四半期	51,705	18.3	815		751		481	
2020年2月期第1四半期	43,711	1.2	0	99.7	2	98.8	47	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第1四半期	63.36	63.15
2020年2月期第1四半期	6.29	

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年2月期第1四半期	46,075	15,689	34.0
2020年2月期	41,261	15,305	36.9

(参考)自己資本 2021年2月期第1四半期 15,652百万円 2020年2月期 15,242百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期		20.00		15.00	35.00
2021年2月期					
2021年2月期(予想)		20.00			

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2020年4月10日開示の「イオン九州株式会社、マックスバリュ九州株式会社及びイオンストア九州株式会社の合併契約の締結に関するお知らせ」のとおり、2020年9月1日を合併効力日とすることから、2021年2月期年間配当(予想)については記載しておりません。

### 3. 2021年2月期第2四半期(累計)の業績予想(2020年3月1日～2020年8月31日)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	97,500	8.1	1,000	1.5	1,000	1.5	550	5.3	72.53

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2020年4月10日開示の「イオン九州株式会社、マックスバリュ九州株式会社及びイオンストア九州株式会社の合併契約の締結に関するお知らせ」のとおり、2020年9月1日を合併効力日とすることから、2021年2月期(通期)については記載しておりません。なお、新型コロナウイルスの感染拡大による業績の影響は、現時点では合理的に算出することが困難であることから上記当期業績予想には反映されておりません。

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年2月期1Q	7,604,048 株	2020年2月期	7,582,048 株
期末自己株式数	2021年2月期1Q	42 株	2020年2月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年2月期1Q	7,595,217 株	2020年2月期1Q	7,569,575 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第1四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における経済環境は、米中貿易摩擦の長期化、英国のEU離脱問題等により海外経済の減速傾向が強まるなか、香港や韓国といった近隣国における政治・経済情勢の動揺も重なり、外部環境は厳しさを増しております。国内においても消費増税等により、経済の先行き不透明感が拭えず、個人消費の低下が懸念されるなど、生活者の消費購買意欲については、依然として不安定な状況が続いております。また、新型コロナウイルスの世界的な大流行により、先行きの見通せない極めて不透明な状況となっております。

九州における食品小売業界におきましても、消費増税や社会保険負担増等可処分所得への影響などから消費マインドの悪化、ドラッグストアやディスカウントストアの食品販売進出の拡大やコンビニエンスストアの出店攻勢等によって、顧客獲得競争が激化しております。また、原材料及び資材価格の高止まりと、人手不足による物流コスト及び労働単価の上昇に加え、お客さまの食の安全安心を含めた品質を重視する傾向が強まり続けるなど、当社を取り巻く経営環境はより一層厳しさを増しております。

当社はこのような経営環境のなか、『すべてはお客さまのために』を原点にベストローカルを実現し、九州におけるスーパーマーケット事業のリーディングカンパニーになる」というビジョンのもと、社会から求められている存在意義を踏まえ、持続的成長を目指し、更なる生産性向上を推進するため、新規出店及び既存店の活性化を継続実施するとともに、熾烈な競争に打ち勝ちながら成長の原資を確保するための収益構造の改革に取り組んでおります。

当第1四半期累計期間におきましては、株式会社レッドキャベツより3月19日付けで、13店舗を譲受及び賃借いたしました。福岡エリアでの当社の食料品販売シェアを高めるとともに、当社の持つ商品仕入ルートや物流システムを統合することにより、よりローコストな運営体制を実現し、収益力を高めることを目的としております。また、事業基盤の拡大の要となる新規出店として、ザ・ビッグ菊陽店(熊本県菊陽町)を3月26日に、マックスバリュエクスプレス博多消防署通り店(福岡市博多区)を4月23日にオープンしました。また、4月17日にマックスバリュ唐津店(佐賀県唐津市)をザ・ビッグ唐津店へ業態転換し、4月9日に佐々店の改装を実施いたしました。

売上高は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛の影響により、前年同四半期を大幅に上回りました。これは、緊急事態宣言を受け、まとめ買い等により買上点数・客単価が大幅に増加したことや、店舗数が増加したことによるものです。費用面では、人件費について、レッドキャベツ店舗の譲受に伴う人員数の増加により、大幅に増加しております。また、売上高の増加に伴い労働時間が増加し、フレックス給料等が増加しました。一方で、新型コロナウイルス感染拡大防止として、チラシやテレビCM等の一部自粛や、出張等の制限、集合研修や集合会議の中止や延期を行ったことで費用の減額にもつながりました。

2020年度におきましては、新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言解除後、感染拡大は落ち着きつつあるものの、未だに予断を許さない状況が続いております。当社といたしましては、本社業務のリモートワークの導入や通勤ラッシュを避けるための時差出勤の実施、店舗においてはレジカウンターにフィルムカーテンを設置するなど、政府や自治体による新型コロナウイルスの感染拡大防止の要請に対応しつつ、従業員の健康と安全管理の徹底を最優先したうえで、施策に取り組んでまいります。

以上の結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高51,705百万円(前年同四半期比118.3%)、営業利益815百万円(前年同四半期は0百万円)、経常利益751百万円(前年同四半期は2百万円)、四半期純利益481百万円(前年同四半期は四半期純損失47百万円)と増収増益となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第1四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ4,813百万円増加し、46,075百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末より1,505百万円増加し、22,097百万円となりました。主な要因は、売上高の増加に伴い、売掛金が653百万円増加したことによるものです。

固定資産は、前事業年度末より3,308百万円増加し、23,977百万円となりました。主な要因は、レッドキャベツの店舗を10店舗譲受したこと、2店舗の新規出店及び既存店の改装等により、有形固定資産が2,940百万円増加したことによるものです。

#### (負債)

当第1四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ4,429百万円増加し、30,385百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末より4,326百万円増加し、28,253百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金が3,403百万円増加したことによるものです。

固定負債は、前事業年度末より102百万円増加し、2,131百万円となりました。主な要因は、レッドキャベツの店舗譲受に伴い、預り保証金が83百万円増加したことによるものです。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ384百万円増加し、15,689百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が367百万円増加したことによるものです。

(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年2月期の第2四半期及び通期の業績予想につきましては、本資料の公表時点において、2020年4月10日の決算短信で公表した業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2020年2月29日)	当第1四半期会計期間 (2020年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,211	11,433
売掛金	2,502	3,155
商品	4,814	5,212
貯蔵品	53	57
その他	2,010	2,238
流動資産合計	20,592	22,097
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,631	8,199
土地	2,875	4,985
その他（純額）	2,687	2,949
有形固定資産合計	13,194	16,134
無形固定資産	228	266
投資その他の資産		
差入保証金	4,753	4,989
その他	2,493	2,586
投資その他の資産合計	7,246	7,576
固定資産合計	20,669	23,977
資産合計	41,261	46,075

(単位：百万円)

	前事業年度 (2020年2月29日)	当第1四半期会計期間 (2020年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,492	19,895
短期借入金	100	-
1年内返済予定の長期借入金	135	70
未払法人税等	470	407
賞与引当金	218	630
役員業績報酬引当金	11	-
店舗閉鎖損失引当金	8	8
資産除去債務	3	3
その他	6,487	7,238
流動負債合計	23,927	28,253
固定負債		
長期借入金	75	60
資産除去債務	1,177	1,212
その他	776	859
固定負債合計	2,029	2,131
負債合計	25,956	30,385
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,626	1,644
資本剰余金	1,472	1,489
利益剰余金	11,987	12,354
自己株式	-	△0
株主資本合計	15,086	15,488
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	156	164
評価・換算差額等合計	156	164
新株予約権	62	36
純資産合計	15,305	15,689
負債純資産合計	41,261	46,075

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年5月31日)
売上高	43,711	51,705
売上原価	33,432	39,496
売上総利益	10,278	12,209
その他の営業収入	590	682
営業総利益	10,868	12,891
販売費及び一般管理費	10,868	12,075
営業利益	0	815
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	4	4
受取保険金	6	3
その他	0	1
営業外収益合計	15	13
営業外費用		
支払利息	1	1
解約違約金	—	61
その他	12	15
営業外費用合計	13	78
経常利益	2	751
税引前四半期純利益	2	751
法人税、住民税及び事業税	37	326
法人税等調整額	11	△56
法人税等合計	49	269
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△47	481

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。